

# 謹賀 ~平成21年正月イベント特集号~ 新年

## 三が日の人出3800人余

# 先憂後楽

ボランティアの皆様、新年明けましておめでとうございます。

わが歴史館は、開館して五回目の正月を迎えました。全園初の本丸御殿の復元、ボランティアガイド等が話題を呼び、佐賀を代表する観光名所として定着しています。特にお正月は、昔懐かしいイベントが盛りだくさんとお正月三が日で前年を上回る三八二五名の人出がありました。以下、多彩なイベントを特集しました。

### 迎春

#### 重さ40キロ

佐賀藩独特のしめ縄飾り『鼓の胸の松飾り』が12月19日、玄關に飾り付けられた。飾りは重さ約40キロ、横幅1.8メートル、高さ約1.5メートル。『鼓の胸の松飾り』の由来は、島原の乱平定時に江戸幕府から受けていた佐賀藩の謹慎が年末に解かれたため、米俵など身近な材料で松飾りを作らせたところ、その形が鼓の胸部に似ていたため。以後、吉例踏襲された。

江戸時代、佐竹藩(秋田県)の人形と並び、江戸正月の二

インタビュー  
~新春第一号は、神代ご夫妻~  
9時半開門と同時に、神代良彦・幸枝夫妻(みやき町)が初詣の帰りに来館。ご主人の良彦様は本丸開館以来、何回も来館。

大名物として有名であった。

### 大空に

舞い上がった皆の風  
正月イベントで人気の凧作りは、連日多くの親子連れで盛り上がりました。



縦・横二本の竹ひごを左右バランスよく取り付けて組み立て完了。早速、凧を空中へ。うまく大空に舞い上がると、大きな歓声が湧き上がっていました。

### 迫力の大筆書き



玄關前の広場には畳6枚分のキャンパスと、清水の濁つぽの冷水で磨った墨汁が準備されました。真つ白なキャンバスに富永将暉先生が、今年の新支・丑に因んだ「猛一歩」の大筆書きを力強く披露された。

その意味について、「日本人は猛烈な速さで駆け抜けてきた結果、昨年は『偽善』や『破綻』の文字が新聞を賑わした。これは『公意識の欠如』によるもの。今年はスロライフを目指し、地に足を着けてマイペースで目標(富士山)に近づける1年にして欲しい」と説明あり。

### 赤ちゃん頑張った

#### ハイイレース

赤ちゃんの健全な成長を願って始めたハイイレースに、107名の参加があった。レースは6名1組で行われ、スタートの合図で一目散にゴールを目指す赤ちゃん。でも、立ち止まったり、泣いたりする赤ちゃんも様々でした。お母さん方は赤ちゃんお気に入りの人形を振り回したり、大声をあげたりして、気を引くのに懸命でした。各レースで1位になった赤ちゃんには賞状と絵本贈呈。ある母親は、思った通りにはいかないものですね」と話された。当日の様子はNHKテレビの全国ニユー、スでも放映されました。



### 日本の音色

#### 箏曲と尺八

第5回「新春邦楽祭」が開かれ、箏や尺八、三味線などの奏者約100名が大合奏され、320畳の大広間に優雅な音色が響き渡った。全

### ツタン

楽しかった餅つき

地域住民参加の下、餅つきを行った。子供たちやボランティアで40キロのもち米をつきあげた。餅つきを希望する子供たちが長い列を作り、鹿島市の共生保育園児が「ソーレー!」の掛け声で、杵を振り上げると歓声が上がった。



### 賛あるふれた

全国ボランティア大会  
大会は、昨年11月20日から二日間、世界遺産の熊野信仰の中心地和歌山県田辺市で開かれ、全国から約八百名、当県からは当館ボランティア3名が参加。私は、第7分科会「魅力あるボランティアガイド活動と人材育成」に参加し、次の二点が印象に残りました。

一、観光ガイドはほとんど再び行きた。など。

### 太田会長のあいさつ

明けましておめでとうございます。本丸歴史館も開館以来5年目に入り、佐賀の観光や歴史・文化に触れるための中心的な存在になっているのでは?と考えます。5年余りが過ぎ、忘れてならないことは私たちの初心ではないでしょうか?それは、解説ボランティアとしての基礎的・基本的な知識や解説の仕方などを研修し、力量をつけていくことが必要だと思います。もう一つはお客様を一期一会の気持ちで心から楽しくおもてなしをすることで、その為には、私たち同士がお互いに楽しく気持ちよく過ごせるような人間関係を持つことが必要だと思っております。余談ですが、百年に一度の経済危機と言われる今日、直正公のような為政者の出現を願わずにはいられないのは私だけでしょうか...

### 礼状

脊振中の生徒から  
昨年12月4日、脊振小・中学校の児童生徒約40名が体験学習のため来館、展示説明と紙芝居を実施しました。その脊振中の陣内校長からの礼状と生徒17名分の感想文が届いたので、要点を紹介いたします。

紙芝居では、直正が日本ではなく世界を見ていたすごい人物だとわかり、感心した。日本を守るため、カノン砲を佐賀藩が作って、すごいと思った。七賢人の話を聞き、佐賀にも日本のために活躍した人がいたことがわかった。320畳の広さにはびっくりした。本丸歴史館は勉強になった。再び行きた。など。

### 編集後記

壁新聞担当となり、元日から7日までイベントを取材しましたがボランティアの皆様は活動に脱帽しました。特に元日は粉雪舞う寒い中、風作りを指導された安富小寺、松田氏らには心から敬意と感謝を申し上げます。  
編集 田中(猛)・戸田